

全国健康保険協会千葉支部 第80回評議会
(平成28年4月26日開催)

平成28年度 千葉支部パイロット事業について

事業名

「糖尿病性腎症の透析予防」事業

<事業の概要>

1ヶ年だけでなく3ヶ年分の「eGFR値(※)」を確認することで、糖尿病患者のうち5年以内に透析になると予測される対象者に対し、医療機関と連携を図り、“生活の視点”を重視した協会けんぽ保健師による支援を実施することで、透析導入を回避する。

※ eGFR値: 推算糸球体濾過量 [腎機能が低下するとeGFR値も低下する]

<取り組む意義>

- ・腎機能は回復しないが進行を遅らせることができる。
- ・CKDステージ第3期以降の糖尿病性腎症の進展阻止が可能な時代になった。
- ・対象者・家族のQOLが維持・向上され、事業所の健康経営にもつながる。
本人は職を失わず、事業主は従業員を失わずに済む。
 - 透析治療を余儀なくされると身体・心理的負担に加え職を失う人も多い。
 - 事業所が主体的に食改善等に取り組めば、他従業員の健康増進にもなる。

<期待される効果>

- ・透析の新規導入患者を減らすことで確実な医療費削減が見込める。
(透析患者1名で年間約500万円。2名が透析回避できれば年間約1000万円)

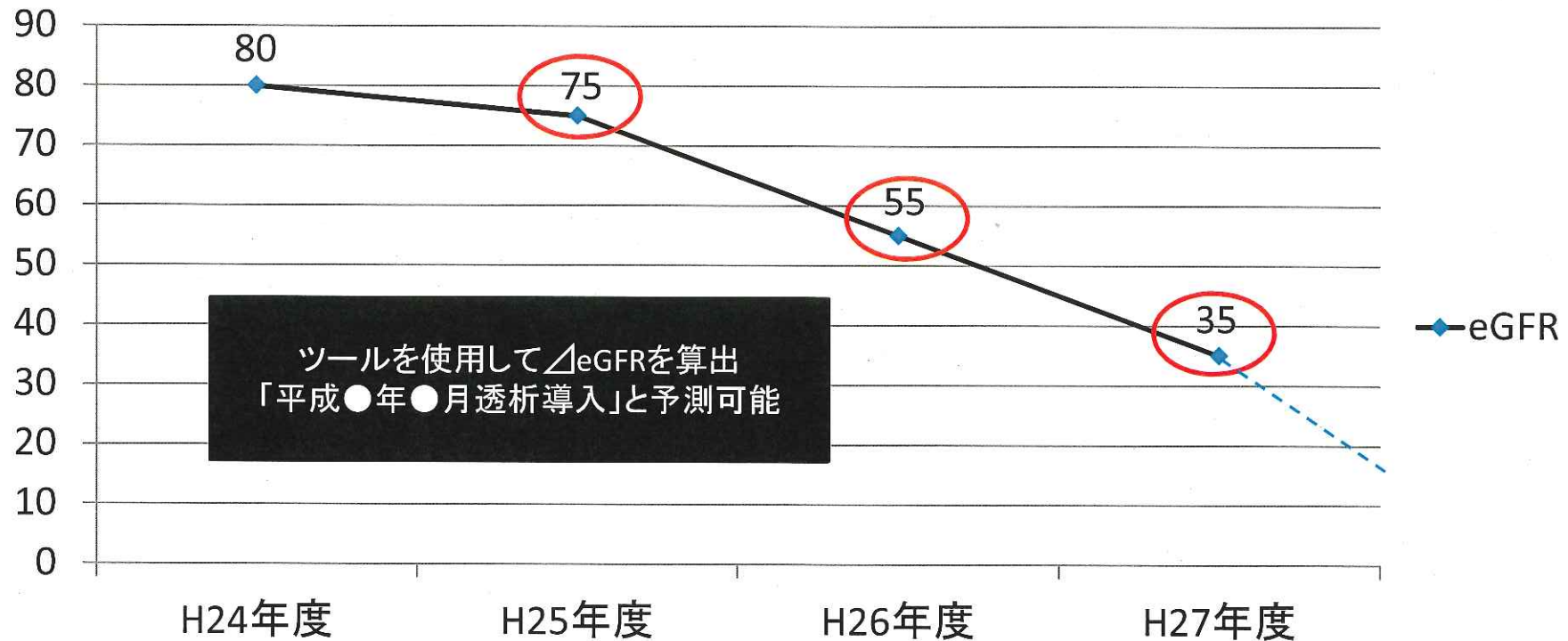
慢性腎臓病(CKD)ステージ分類

日本腎臓学会CKD診療ガイドより抜粋

病期	尿アルブミン値(mg/gCr) あるいは 尿蛋白値(g/gCr)	GFR(eGFR) (ml/分/1.73m ²)
第1期 (腎症前期)	正常アルブミン尿(30未満)	≥90
第2期 (早期腎症期)	微量アルブミン尿(30~299)	60~89
第3期 (慢性腎症期)	顕性アルブミン尿(300以上) あるいは 持続性蛋白尿(0.5以上)	30~59
第4期 (腎不全期)	問わない	15~29
第5期 (透析療法期)	透析療法中	<15

ターゲットは「第3期」以降(5年以内に透析になる)

eGFR値の推移



1時点(1ヶ年)のeGFR値では腎機能低下の判断は不可(腎硬化症は現時点で低値でもそれ以上は下がらない)。よって、複数年で見てeGFR値がどのくらい低下しているかを確認する必要がある。例えば、今までは「年間5ポイント」低下だったものが、直近の一年で「年間20ポイント」低下している場合、透析導入が「平成28年●月」とわかる(“JMAP方式”にて透析導入時期の推測が可能)。なお、eGFR値が「8ml/min/1.73m²」を切るとほぼ透析とも言われている。

※JMAP方式:3ポイント分のeGFR値より、その傾き(Δ eGFR)を直線回帰式で算出し、透析導入時期を予測するツール。

【事業展開に至る経緯～現在】 既に腎症第3期の加入者を支援中

- ①平成26年12月：千葉県循環器病センター平井愛山先生 → 協会けんぽ（電話）
「協会けんぽ加入者で糖尿病で受診している患者の食事指導などをお願いしたい」
→ 以前より保健指導で訪問している事業所の従業員であることが判明。
- ②平成26年12月：協会けんぽ支部保健師 → 事業所担当者（電話）
事情を説明して、特定保健指導時にAさんの面接もさせていただきたい旨を伝える。
- ③Aさんの支援（面接）について承諾をいただく。
- ④平成26年12月～平成27年6月：協会けんぽ指導保健師 → 対象者Aさん（面接，電話，手紙）
通常の保健指導と同様のながれで、塩分制限など食事に関する支援を継続的に実施。
- ⑤平成27年10月：千葉県循環器病センター平井愛山先生 → 協会けんぽ（電話）
「eGFR（＝腎臓の濾過機能）が低下しているので、支援をお願いしたい」
- ⑥平成27年10月：協会けんぽ支部保健師 → 事業所担当者（電話）
状況を説明し、再度Aさんの支援を実施することへの了承を得る。
- ⑦平成27年11月～現在：協会けんぽ支部保健師 → 対象者Aさん（面接，電話，手紙）
- ⑧平成28年4月：協会けんぽ支部保健師 → 対象者Aさん，事業所担当者と面接
現状における情報共有，社員食堂の見学，外来受診への同行（今後すべきことなどの確認）

【まとめ】

- ・透析予防は“確実な医療費削減効果”がある(約500万円/人)
- ・「糖尿病性腎症の透析予防事業」は、5年以内に透析になる対象者に絞って支援。「最小限のマンパワー」で「最大限の効果」を得られる事業である。
- ・透析予防は、もはや医療機関スタッフだけでは手が回らない。「生活の視点」を持った支援を協会けんぽ保健師が担い、医療連携を図る時である。
- ・支援開始後は、連携先の医療機関スタッフと定期的にミーティングを開催することで情報共有を図り、各々のスキルアップも期待できる。
- ・加入者本人や家族のQOL維持・向上はもちろんのこと、事業所の健康経営にもつながる、波及効果のある事業である。
- ・具体的な支援手法を確立できれば、毎年継続して実施していきたい。
 - パイロット事業として、透析予防事業を千葉支部、石川支部、大分支部が先行して実施し、透析予防の支援に関するノウハウを蓄積することで、次年度以降全国に展開していく予定。

【関係機関との関連図】



医療機関

①H26.12 平井愛山先生より電話あり。「被保険者で支援してほしい人がいる」

⑥H27.10 平井愛山先生より電話あり。「eGFR低下中。Aさんの支援を依頼したい」

Aさん 40代 男性
(協会けんぽ被保険者)

- ・精密機器の図面やプログラム作成の係長(勤続20年)
- ・通勤は片道1時間
- ・両親同居, 妻
- ・テニスが大好き

主治医からの説明を受け、本人も「協会けんぽからの支援」を希望

被保険者(本人)



医療保険者
(協会けんぽ千葉支部)

④保健指導 (H26.12~H27.6) 契約保健師にて

⑦保健指導 (27.11~現在) 支部保健師にて

【予定】社員食堂の確認・担当者との面接
(H28.4.13)

② 協会けんぽ千葉支部から車で1時間ほどの距離

③ 東金市にある機械製造業(被保険者50人以上)

⑤ 政管健保の時から訪問指導を実施(受入良好)

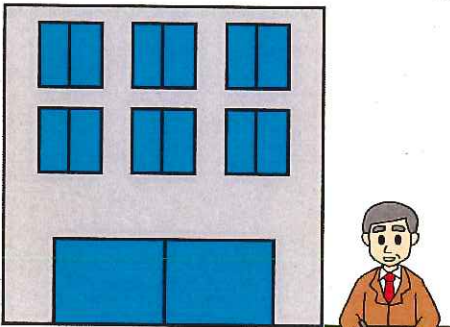
⑧ もともと特定保健指導の訪問を予定していた(平井先生からの初回電話の2日後に訪問予定だった)

・東金市にある機械製造業(被保険者50人以上)

・政管健保の時から訪問指導を実施(受入良好)

・協会けんぽ千葉支部から車で1時間ほどの距離

・もともと特定保健指導の訪問を予定していた(平井先生からの初回電話の2日後に訪問予定だった)



事業所